

KOCHI 2014 ROTARY 2015 CLUB SINCE 1937



週報



Weekly report 第3218回 2015年6月2日 2015年6月9日発行

● 会長挨拶



皆さん、こんにちは。ニッポン高度紙さんの近く、春野街道のアジサイの花が水面に映え、夕刻には高知市内の川の上流で蜚が飛び交う、6月第1週となりました。お元気でお過ごしのことと存じます。日中の最高気温が30度を超えることもしばしば、熱中症予防など暑さ対策に気をつけてお過ごしください。

さて、先日の日曜市での買い物を済ませ、帯屋町アーケードを涼みながら歩いていると、中央公園北口の広場で彩り鮮やかで様々な国の音楽が融合したよさこい踊りが私たちを楽しませてくれました。また、新しい観光資源が息づいてきている事を肌で感じとても嬉しくなりました。

6月は、7月11日から15日まで高知へ滞在するニュージャージーからの短期交換学生の受け入れ準備を行います。ホストファミリーはほぼ内定し、古谷純代短期交換地区委員によるホストファミリーオリエンテーションなどが予定されております。当クラブへの例会訪問はありませんが、滞在期間中、会員の皆様のご協力をお願いすることもあろうかと思っておりますので、よろしくお願いたします。

本日の例会は関 雅文会員のご紹介で、テーブルトップディレクター小島喜和様をお迎えしています。本日の例会も皆様にとって楽しく、新たな発見のひと時でありますことを願いながら開会の挨拶といたします。



■本日のプログラム [6 月 9 日]

会員スピーチ
親睦委員会
高野 一郎 委員長
「親睦委員会の意義目的と、他RCの特色ある取り組み例」

会 長 西山 彰 一
副 会 長 野 村 茂
幹 事 吉澤 文治郎
副 幹 事 小笠原 晃男
会報責任者 安藤 一 臣

● **ロータリーソング** 「君が代」「我らの生業」

● **今週のピアノ曲** 「ハワイの結婚の歌」 ピアノ演奏：山内りり会員

● **来訪ロータリアン**

松山RC 河内 広志 氏



● **お客様**

2014-15年度 ライラセミナー参加者 宇治電化学工業(株) 水口和香さん

◆ ライラセミナー参加報告



◎水口 和香さん

まずは、この度ライラセミナーに私を推薦して参加させていただけたことに、心より感謝申し上げます。

このセミナーでは、4日間、香川県の余島の恵まれた自然の中で、テーマに基づいた講義を受けて、班でキャビンタイムやレクリエーションを通して交流を深め、共通のテーマについて討議を行いました。

今回のテーマである「いのち」について学び考えていく中で、家族や友人、会社の方といった今まで繋がりのある人々が思い浮かびました。ともに生きていく、生きていけることが奇跡であること、余島の自然の中では自分はちっぽけな存在で、生かされているんだということに気づき、これからは更に、感謝し、謙虚に生きていかななくてはならないと深く感じました。

また、活動の中で年代や職業も異なる13人の班で、「リーダーシップ」について考えました。さまざまな経験、多様な人間性があふれる中、簡単に意見がまとまらない難しさもありましたが、本気で話し合うことで多種多様な意見が生まれていく楽しさも実感しました。最初、私の考える「リーダーシップ」は責任がとれる人、組織づくりができる人といったものしかありませんでした。しかし、この話し合いを通して、リーダーというのは資質や才能で決まるものではなく、周りを見る、積極的に発言するなど、自分で意識や行動を変えていければ全員がなれるものだと考えました。そして、話し合いが進む中で意見を言い出せない人もいることに気づき、13人全員が発表ができるよう、積極的に聞き出していくようにしました。この4日間で自分がそのような意識を持つことができ、ほんの少しですが、成長できたのではないかと感じています。

このセミナーを通して得た仲間や、家族など身近な存在も含めた繋がりをこれからも更に大切にしていきます。そして自分が得たものをすぐに体得ができなくても、これからの仕事や生活の場で、自分を研鑽し続け、周りにも影響を与えられる人になりたいと思っています。

最後になりましたが、大変貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

● ライラセミナー修了証書を水口 和香さんにお渡ししました。

● 会長報告

・ロータリーの友6月号に、我々の燦燦奨学金等、独自の奨学金を持つクラブとしての参考になる記事が出ています。また、22ページにライラプログラムについて、28ページからは海外の子どもたちに手を差し伸べるといった記事が載っていますので、ぜひご一読ください。

・6月16日の例会に大津RCから以下の3名の方が訪問されます。

河本英典様 (第2650地区パストガバナー、2008-09年度大津RC会長)

山田 督様 (2012-13年度大津RC会長)

宮川芳夫様 (2015-16年度大津RC会長)

● 幹事報告

・例会終了後、定例理事会を行います。

・徳島RC創立80周年記念式典への出席のお礼状が届いています。

・6月20日、21日、ローターアクト四国大会が行われます。詳細は事務局まで。

・本日の卓話者、小島様の著書を例会終了後、販売いたします。ぜひ、ご購入ください。





● ゲストスピーチ

高知の食と豊富な観光資源について

テーブルトップディレクター 小島 喜和 氏



私は四万十市で生まれ、高校まで黒潮町（旧大方町）で過ごしました。大学と同時に上京し、結婚後も東京で暮らしています。17年前よりお菓子教室開催のために月1度1週間、土佐清水に帰省するようになりました。そこで気が付いたのは、都内にいるときは、外で食事もしますし、都内で買える物でフランス料理や中華などの料理を作っていますが、帰省すると全く外食をせず、母の料理だけを食べているということでした。母の料理は、その土地で取れた季節の野菜が中心、しかも収穫したその日に調理したものでした。特別に肉を使ったものでもなく、主菜も野菜なのですが、何か自分の身体が欲する食べ物のように感じて、遅蒔きながらも母の料理を習い始めました。

最近、私は高知市内でも教室を開いていますが、産地直販の店に朝早くからでかけると、その日に取れたばかりの新鮮な野菜等、いい食材が手に入ります。春になると、抜き菜を使って白和えにすると、柔らかくて香りも高く、こんなものは都会では食べてこなかったなとつくづく感じます。夏には柑橘類、例えばスムカンの果汁や皮を使います。これをかけることで、食中毒も防げますしとても爽やかな魚料理ができます。

私は最初、海外に出て勉強をしてきましたが、本当は、自分の足元に風土が育んだ大切な食文化があることが分かりました。そこで、教室の皆さんにお話を聞くと、祖母や母の味、近所のおばちゃんの味、そういったものが、下の私たちの世代に伝わってきていないように感じました。食というのは、本来母から子へ、子から孫へと受け継がれていくものだと思いますが、高知でも核家族化が進み受け継がれていないのが現状です。これを残すためには、一人で活動していても駄目だと思い、すぐに高知新聞さんに電話をしました。コネクションなど全くなかったのですが、とにかく熱く、高知の食事の素晴らしさを語り、これを残すレシピを本にしてはいかがでしょうかと言っていました。今思うと若気の至りで恥ずかしいのですが、高知新聞さんは私の思いを受け止めてくださり、「すぐに本にするのは予算的なこともあって難しいので、まずはK+に月に1度、書いてみてはどうでしょう」と言ってくださいました。以来、この8月で3年になります。奇をてらわずに、本当に食材を新鮮なまま召し上がっていただきたいと思いますので、私のレシピということではなく、いろんな方に教えていただいて勉強しながら、残していけるような文章を書いています。

私の子どもの頃は、学校の遠足で岩場に張り付いているフノリを取って、みんなで食べたりしました。箱一杯のイチゴが栽培農家の親御さんから届いたり、潮の引いた入野の浜で取った小袖貝を母がお吸い物にしてくれました。教員を退職した叔母がラッキョウを作り始め、収穫時季にはたくさんのお手伝いの方が来ていました。秋には、山でアケビを取って食べました。こういう子どものときの、目で見たり、風を感じたり、空気感や味覚といった体験、やろうと思っただけではない食育が、私のルーツとなって今の仕事に至っているように思います。

3.11の東北大震災の後、都内では一気に食料がなくなってしまいました。その1週間後、高知で教室があったため帰ってきたのですが、こちらでは、皆さんが特別ぜいたくをしているわけではないのですが、普通に暮らしていました。身近な手の届くところに、安心して安全な食べ物があるという豊かさを実感しました。そのときの体験から、高知に帰ってきたら一次産業の農家の方々にお目にかかる機会を自分でつくるようにしました。いろいろな方に出会い、お話を伺って、できたら私のコネクションの中で、県外にも発信できたらと考えています。その中で、来月初めての試みとして、料理人と生産者の方、消費者、あと私のような仕事をしている者が竜串に集まって、試食会というか親睦会を開こうと計画しています。そこから、どんなつながりができるか楽しみにしています。

また、「高知のおいしい料理帖」を都内の出版社から出しました。お願いに行った出版社からは、東京発地方は簡単にできるけど、地方発全国は難しいと言われました。でも、これは絶対やらなくてはいけないと思って、金高堂さんのお力も借りて出版に至りました。この本は、ただの料理本ではなく、高知の夏のキラキラした太陽の下で食べる料理、春の小川のせせらぎに生えるクレソンを使った料理といった、季節と風土、風景が一緒になって、みんなが高知に行ってみたいと思う、食から観光客を引っ張ってくる。また、高知に住んでいる若い人にも使ってもらえる。そんな本になっています。

食だけではなく、高知にはまだまだいいものがたくさんあります。土佐茶もそうですし、い草や土佐刃物、土佐備長炭、土佐和紙、工芸等々、これからは、そういった物もどんどん取材して、皆さんに発信しながら盛り上げていきたい。これが次の私の野望です。ロータリーさんのような横の繋がりが多くなれば、もつともつ県も盛り上がるのではないかと思います。まだまだ草の根ですが、少しずつみんながつながっていく活動が、食を通じてできればいいなと考えています。



◇ 例会変更 ◇

高知南RC	6月11日→10日 日時計例会(阪)	高知西RC	6月19日	夜間例会(三)
高知東RC	6月24日 夜間例会(阪)	高知南RC	6月25日	夜間例会(阪)
高知中央RC	6月25日 夜間例会(城)	高知北RC	6月29日	夜間例会(三)
高知RC	6月30日 夜間例会(三)	高知ロイヤルRC	6月30日	夜間例会(旭)

※サインメーカーキャップのできるホテル (三)… 三翠園 (城)… 城西館 (阪)… ザクラウンパレス新阪急高知 (旭)… ホテル日航高知旭ロイヤル



◇ 出席率 ◇

	総数	出席	欠席	メイクアップ	出席率
6月 2日	(-8)90	58	20	4	75.61
5月 19日	(-7)66	66	7	10	91.57

● 累計額 [6月2日現在]

ニコニコ箱	1,149,100円	ロータリー <small>さんさん</small> 基金	223,318円	ポリオ募金	464,100円
-------	------------	------------------------------	----------	-------	----------

■ 次週のプログラム [6月16日]

新会員スピーチ
 アサヒビール(株) 高知支社長
 甘田 量一 会員
 「竹鶴とリタの物語」

創立 昭和12年10月
 例会日 火曜日 12:30~13:30
 例会場 三翠園ホテル TEL(822)0131
 事務局 高知市本町3丁目2-15 高知新聞放送会館1階
 TEL(824)8660 FAX(824)2529
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>